



平成14年度第二回例会議事概要

平成14年度第二回例会が下記により開催された。

日時	平成14年9月25日 12:00 ~ 13:00
場所	苫小牧テクノセンタ - 会議室 (苫東柏原地区)
出席者	立地企業 32社 33名、道央産業技術振興機構 1名、 早来町土地開発公社 2名、北海道開発局 1名、(株)苫東 9名 (計46名)

1 新会員の紹介

a 株式会社 ミノル

取締役本部長 荒井安信氏 から苫東柏原地区に立地した旨のご挨拶がありました。

(会社概要)

名称	株式会社 ミノル
代表者	代表取締役 横島康弘
工場長	取締役工場長 荒井安信
所在地	苫小牧市字柏原 6番 150
設立	平成14年7月8日
操業開始	平成14年9月
資本金	3,250万円
事業内容	ICPブリ - ス工法の一連の業務
	(1) 下水道管渠更生工事に伴う材料・機材の製造販売
	(2) 下水道管渠更生工事
	(3) 総従業員数 6名

参 考

ICPブリ - ス工法 (平成13年度 国土交通省 技術開発賞受賞)

老朽化した既設下水道管路の中に、取付管と本管が一体化した自立管を新たに形成する更生技術。下水道管路の形状に合わせて加工したポリエステル不織布に、熱硬化性樹脂を含浸させた「ICPライニング材」を、水圧、空圧によって管路内に反転挿入、温水シャワー・リングによって硬化し、管路内にプラスチックパイプを連続して形成する。

「4号機の運転開始」 北電苫東厚真発電所 岡田次長

苫東厚真発電所は昭和55年10月に1号機が35万KWで営業を開始して以来、昭和60年10月に2号機60万KW、平成10年3月に3号機8万5千KWが運転を開始し、泊発電所と並ぶ北海道電力の主力電源として北海道の電力の安定供給、多用化、また電力会社としての経営基盤の強化に大きく寄与してきた。

4号機については平成11年に建設を開始し、本年6月17日に営業運転を開始した。

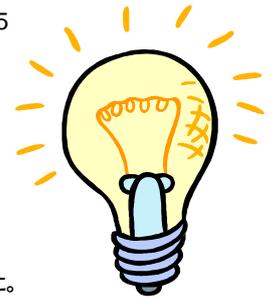
出力は70万KWで単体の発電機では道内最大となる。また最新の技術、資材を使い、環境保全対策も万全で、国内の石炭火力発電所で最高レベルの発電効率を達成した。

発電所の今ある敷地ではこれが最終ユニットとなる。

石炭の使用量は1号機～3号機で年間250万トンだったが、4号機の運転開始で約400万トンの年間使用量となる。これに合わせ大型化した石炭専用船札幌丸 9万トンが9月26日初入港した。

送電線も4号機建設に合わせて新しく275千ボルト2回線 1ルートを建設し、既設線についても従前の187千ボルトを275千ボルトに昇圧した。

4号機の特徴として発電効率が44.2%と2号機より5%程効率が上がっている。ボイラ - 下のクリンカは国内初の乾式処理となっている。またタービン翼は2号機の40インチから43インチとなり、600度の高温と255 kg/cm²の高圧に耐えるようになった。



「敦賀直行便の開設」 新日本海フェリ - 株式会社 濱田苫小牧支店長

9月17日(火)に苫小牧港東港と敦賀間に直行便を就航させた。国内最速の超高速フェリーで、東港を23:50に出航し翌日20:15に到着する。約20時間で北海道と関西圏を結び三日目配送を可能にした。従来の東港・秋田・新潟・敦賀航路と直行便の2便体制で運行している。

旅客フェリ - なので非常にきれいで、快適な船旅が楽しめます。最大30%引きの企画商品もありますので、是非ご利用いただきたい。

2 各社近況報告

引き続き会員の各社から近況の御報告がありましたので概要をご紹介します。

「北海道工場の独立」

いすゞ自動車株式会社 高見工場長

10月1日付けで北海道工場がいすゞ本体から独立し、100%子会社「いすゞエンジン製造北海道」としてスタートする。組織・形態および製品は現状のままとし、全てのインフラ、リソースを引き継ぎ、従前どおりの生産活動を行う。

現地法人として地元に着目した企業活動を行うことがテーマになっている。

「苦小牧東港の近況」

苦小牧港湾建設事務所 上西所長

(国土交通省北海道局室蘭開発建設部)

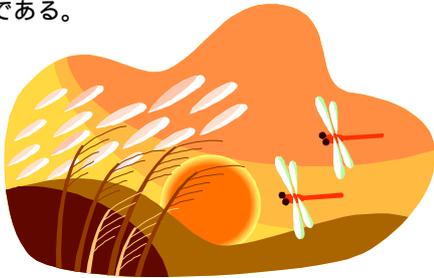
9月25日に東港多目的国際ターミナル - 14m岸壁の現地着工式が行われる。安全祈願祭の後、杭径1m、杭長30mの杭を関係者とプレスが見守る中で打ち込む予定である。浚渫工事は平成13年から実施しており、まず平成16年末に - 10m水深で供用開始し、最終的に平成18年末に - 14mの埠頭が竣工する。

多目的国際ターミナルの用途は二つあり、コンテナ船の入港と大型米製材船の直接荷役である。西港の国際ターミナルは年間15万トン扱っているが、この7年間で倍増しており急激に取扱量が増えている。今回の東港の事業はこれに対する対応策でもある。

「苦東地区の近況について」

株式会社 苦東 小林社長

- ・本業の不動産はいわゆる誘致企業については、上半期一件の分譲もなく非常に厳しい状況である。
- ・道路アクセスについて、平成16年にいすゞ自動車南側の道道が勇払川を横断して西港に直結する。また道道静川美沢線も平成16年に新千歳空港に直結する延長工事が完成し、苦東地域から千歳空港ターミナルビルまで15分で行けるようになりますます便利になる。
- ・新日本海フェリーの敦賀直行便の開業により関西圏、中部圏への輸送がますます便利になった。私も9月17日の第一便に乗船し大阪に行ってきた。(朝起きたら秋田沖で、敦賀まで20時間位で、下船してから大阪へは特急で1時間半位である。乗客には不便なダイヤであるが貨物には大変便利なダイヤである。



- ・先般、当テクノセンターにおいて北大の市川教授に講演いただいた。先生は天然ガスから触媒により直接水素を取り出す研究では世界的な権威で、苦東地域が水素の生産基地に適しているとの内容だった。

理由として、勇払の天然ガスがパイプラインで札幌の北ガスまで送られているが、このパイプが苦東地域を通っており、取り出し口もあること、メタンの質が良いこと、副産物のベンゼンを材料とした化学産業の立地が期待できることによる。苦東地域にはテクノセンターの研究施設があり、石油会社大手の出光さん、工業ガス専門の日北酸素さんも立地していただいており、将来的にはITERに変わるプロジェクトとして期待していいのではないかと考えている。

3 その他

a 「アイリスタウンの分譲案内」

早来町土地開発公社 奥田事務局長

苦東地域に隣接している遠浅地区で早来町が住宅地を造成分譲している。平成13年度に15区画造成し現在12区画分譲済みである。今年度32区画造成中で今月末竣工する。

1区画約100坪程度で上下水道が完備しており、苦小牧市の沼ノ端地区と比較しても非常に安い価格となっている。また何年以内の住宅建設などの制約はつけていない。苦東柏原地区まで車で10分～15分位の位置にあり周辺の自然林に囲まれ環境は申し分ない。立地企業の社宅用地、職員のマイホーム用地としてご検討いただきたい。

本年度の分譲は10月1日からとなっている。

a 「セミナーのご案内」

道央産業技術振興機構 長谷川業務部長

- ・「技術開発支援制度・特許活用セミナー in 苦小牧」開催について

日時 平成14年10月23日(水) 10:00～
場所 苦小牧市グランドホテルニュー・王子

平成14年度 トピックス

4 無料職業安定所を開所

道の委託で苦小牧地域でのマルチワーク推進事業を行う苦小牧地域職業訓練センターは1日、無料職業安定所開所式を行い、複数の短期雇用を継続的にこなすことで年間を切れ目なく就労を希望する登録者への職業紹介業務を開始した。開所式では、同センター運営協会の矢部幸一会長が玄関に看板を設置。「センターにとって、今年は創立二十周年という節目の年。マルチワークという新たな事業を推進することで、ますますの発展を期待したい。」と挨拶した。

同センターでは随時、求職者登録を受け付けている。
電話 0144(55)6622

4 いすゞ北海道工場、試験場分社設立

10月2日いすゞ自動車は苦小牧市柏原の北海道工場を「いすゞエンジン製造北海道」に鶴川町米原の北海道試験場を「ワーカム北海道」にそれぞれ分社した。社長はエンジン製造が高見健三北海道工場長、ワーカムは小林正利本社開発統括室長が就任した。両者共にいすゞ自動車の100%子会社で、資本金は1千万円。エンジン製造は土地、建物、設備、部品、完成品をいすゞ本社所有のままで、エンジンや関連部品の生産業務を請け負う、役務提供会社となる。ワーカムはいすゞ本社の現有設備をリースで運営し、他社から試験業務を受託するなど販強化に努める。